

タンポポやオオイヌノフグリ咲きほころぶ緑の絨毯の上で、鯉のぼりが舞い踊る大地の春の光景が広がっています。子どもたちの、鯉のぼりの中に入って遊ぶ姿は、大地の春の風物詩となりました。

4月、新学期の子どもたちの集う園などでは子どもたちの泣き叫ぶ声が響き渡り、先生たちも大声の毎日で声をからし、てんやわんやの日々が続きことがあります。大地では、「3学期の子どもたちと変わらない」というほど、落ち着いて、毎日を楽しんでいます。年長児のお世話係の奮闘をはじめ、年中児の成長なども目を見張るものがあります。縦割り保育のやはり効能です。朝の会、わらべ歌、絵本、お弁当など、全てが落ち着いて集中力抜群。スタッフも当てが外れたといった感じで、子どもたちの日々の姿に驚いています。この落ち着きは何かという感じで、うれしい楽しい毎日をご過ごしています。

風薫る5月を控えて、躍動感あふれる毎日を、大地に集う家族が大地で過ごしていただければ嬉しい限りです。連休中も、リズムのある生活をベースに、思い切り子どもたちと、今を楽しんでください。連休明けから、本格的に、大地のリズムある生活が始まります。



【家族の軌跡と運命】

24歳まで自分を見つけ、それから目指す人生を見つけ、必要な学びで学校へ行き、その後正規就職しても、理想の聖域となる職場環境を求めながら、結局34歳になり、理想郷となる場所を作り楽しく働き始めた。自分の好きな事をしながら遊びなのか労働なのかわからない同化した人生を楽しんできた。一方、妻は学校卒業後、目指す職に就くために猛勉強して、目標を達成して、好きな世界と職を満喫した。29歳で夫と長野へ来て、保育園の給食調理補助員となり、30代40代は4人の子どもを育てながら、英語教室や幼稚園とめまぐるしく働いた。私たちは、365日ほとんど3食を共にし、子供たちは15歳までは朝夕はほとんど一緒に食べ、厳しく親の価値観を押し付けてきた。15歳を過ぎると、黙秘権のある超思春期に入り、親も干渉はその後しなかった。

さて、こんな親の元で育っている子どもたち。親は、人生の指導をした覚えはないが（金・将来性・世間体の人生選択だけはしてこなかったが）、皆感心するほど、はらはらドキドキの人生を選んでくれている。遺伝でもなく運命だろうか。親の影響もあるが、大地の集った大人たちの影響も大きいと思われる。

現在カナダの登山学校にいる長男。自分の目標のために、1秒1円たりとも無駄にせず学び、必死に頑張っている。ブログなどを見る限り、ドラマのような美しすぎる世界でうらやましすぎるスキーやクライミングの世界で最高の笑顔を見せているが、それは限界まで努力している者だけが彷彿させるものであろう。育てた充実感があり、親として、この子を尊敬し、家族全員が、この子から生き方を教えてもらい、感謝している。

唯一の娘の長女。高校卒業時、ブランドや偏差値などで大学進学して適度に生きる人生を否定し、厳しい環境で自分を探したいとカッコいい事を言いながら4年間、自分を見つめ模索して、22歳で目指す道を見つけ、親と同じようにこの4月に入学して必要な学びを始めた。授業料は援助を求めてきたが、それ以外は自活して頑張っている。「食で世界を変える」と入学式で言い放ち、学級長を決めるときに「クラスの30人を変えられない位ならば、世界を変えることはできない」と思い立候補したらしい。こちらも、エネルギーに好きな学びのために頑張っている。兄とはものすごく仲が良く、親としても尊敬できるまで育っている。

そして、最近までお世話になった次男の雄河。テニスで中学 高校 大学まで進んだが、大学は、文武両道の学びの府。長女の否定する学びの目標なく進学してしまい、自分を見失いかけて行き詰った。親としてせつかく入った大学、長女は、今まで勉強から逃げてきただけに、ここで逃げるんじゃないとか、長男は本当に自分の好きな道かどうかは自分で決めたほうが良いなど家族でいろいろエネルギーをかけた。何よりも、その子が輝いてくれることが一番だと思い、とりあえず長野へ戻ってきた。そして、大地のお手伝いに入った。日毎に子どもたちや保護者の皆さんに育てられ、夕食の話題はどんどん子どもたちのことになり、最後は、子どもたちが可愛いとそればかりの話題となった。子供たちに慕われ、そして保護者という大人の世界からもそれなりに褒められ認められどれほどうれしく、自信を持てた事だろう。本当に親として、保護者の皆様の感謝してもしきれない。そんな思いを持ち、大人8人と一緒に寝食を共にする山小屋へ登っていった。どんなになってくるか楽しみである。

最後に末っ子。まさに超思春期真っ盛り。こちらも久しぶりに激震 運命を感じさせてくれた。高校受験で見事にひっくり返ってくれた。親も他の3人のことにエネルギーを向けすぎ、肝心の高校受験生には大丈夫と安心しきっていたのか、この子が俺にもエネルギーを向けてくれとサインを送ったのか。併願はしなかった（させなかった）ので、受験失敗は中学ではこの子だけか。合格発表は、今の時代ほとんど両親が付き添うらしい。上の子どもたちはもちろん一人で行った。末っ子も一人で行くと言ったが、中学では他に2人だけだったらしい。それも大地卒と大地卒の兄だったからさずがである。そして、その多勢の大人や受験生家族の中で自分の番号がなかった時の末っ子の状況を考えるだけで親としては今でも切なくなる。そして、すぐに駆けつけるからそこで待っていると言って駆けつけて、見た時の末っ子の表情 顔 どんな言葉をかけていいかわからず、その状況を親ともうけられるまでにさすがに時間がかかった。（これは夢じゃないだろうか…文庫火災の時と同様）息子は、その日はさすがに1日中泣いていたが、大好きな高校野球選抜大会テレビ放映もあり、翌日にはある程度復帰していた。人生の起こることすべては意味があり、必要なことが必要に起こるといふ運命があることを受け入れることができるので、私たちもすぐに復帰して、今では感謝になっている。そして、末っ子のものすごい精神力に気づくことができ、この若い時の辛さは、大きなお土産を持って帰ってくるだろうとワクワクしている。

一つだけ忘れもしない出来事。受験失敗から3時間後に、再受験手続のために中学へ親子3人で出向いた。数日前の華やかな卒業式に比べたら、刑務所へ行くような気分であった。先生たちの視線が気になった。たぶん、うちの子もただけであろう。担任も再受験の事務的な事だけで、子どもには声を一つもかけなかった。親としては辛かった。これが先生達なのかと悲しくなったので、妻に相談すると、妻は冷静に、私が話をすると、翌日、先生にアドバイスした。先生は「私もどうやって声をかけていいかわからなかった」と答えた。私は「先生として、子どもの人生の1ページに残る存在になるチャンスを逸しましたね。残念です」と言うことしかできなかった。2日後に合格した高校へ出かけた。校長先生達一同が「ようこそ我が校へ。歓迎と激励をします」と本当の家族のように暖かく迎えてくれた。嬉しかった。大地にとっても私達にとっても大きな教訓だった。

更に運命が続いた。末っ子の高校の校長先生の横には、問題児で通っていた長女の高校時代の担任がいた。進級問題などで呼び出された事のある親にとっては、運命を感じさせることであった。